

平成19年6月26日



news release

ポケットカード株式会社(8519) 平成20年2月期 第1四半期業績の概況
割賦購入あっせん部門、融資部門が順調に推移し営業収益は前年同期比6.7%の増収
利息返還請求関連費用等の増加により第1四半期純利益は前年同期比30.0%の減益

ポケットカード株式会社(8519)の平成20年2月期第1四半期の業績は、割賦購入あっせん部門、融資部門が順調に推移した結果、営業収益は101億5百万円(前年同期比6.7%増)となりました。一方で昨今の利息返還請求の増加等に伴い営業費用が増加し、営業利益は15億81百万円(前年同期比31.3%減)、経常利益は15億76百万円(前年同期比31.4%減)、第1四半期純利益は9億20百万円(前年同期比30.0%減)となりました。

収入面では、割賦購入あっせん部門が、各種キャンペーン企画の実施やカード認知度の向上等により取扱高が572億67百万円(前年同期比17.0%増)と拡大したことや、ショッピングリボへの積極的な取り組みによりリボルビング残高が増加したことで、営業収益は13億59百万円と前年同期比23.8%増の大幅な増収となりました。また融資部門についても、会員一人ひとりの信用度に応じた機動的な与信枠の設定などを実施した結果、債権流動化分を含む融資残高は1,400億9百万円(前年同期比3.0%増)と伸長し、営業収益は80億91百万円(前年同期比4.5%増)となりました。割賦購入あっせん部門、融資部門両面での順調な推移により、営業収益全体では101億5百万円となり前年同期比6.7%増の増収となりました。

一方、営業費用については、効率的な会員募集の実施によるカード募集費用の削減や新システムへの移行に伴う情報処理費用の減少等コスト削減に努めましたが、昨今の利息返還請求の増加に伴う関連費用の増加により、85億24百万円(前年同期比18.9%増)となりました。

以上の結果、営業利益は15億81百万円(前年同期比31.3%減)、経常利益は15億76百万円(前年同期比31.4%減)、第1四半期純利益は9億20百万円(前年同期比30.0%減)となりました。

【単位：百万円】

	営業収益	経常利益	第1四半期純利益
平成20年2月期 第1四半期業績	10,105	1,576	920
前年同期比	+6.7%	△31.4%	△30.0%

<第1四半期のトピックス>

【新基幹システム「P-sys（ピース）」が遂に本格稼働開始】

新たな事業展開とお客様への高度で多様なサービスを提供するため、従来の基幹システムを刷新し新基幹システム「P-sys（ピース）」の稼働を開始しました。「P-sys」は、オープンプラットフォーム上で稼働するシステムであり、当社の経営戦略をシステム上で実現することができるよう、高い拡張性・柔軟性を持っているのが特徴です。今後は、この新システムを活用し、今期の経営スローガンである「ビジネスモデル変革への挑戦とサービス品質の向上」を実現してまいります。

以上